

あなたの子牛、元気ですか！？～ 哺育だよい

第17号 ドイツ 酪農視察レポート①

12月となりました。街にはクリスマスの飾りつけがにぎやかに灯るようになりました。初雪も降り、本格的な冬が到来しようとしています。皆様の子牛はお元気ですか！？

11月にドイツを訪れる機会を得ました。今月から少しずつその様子をお伝えさせていただきます。

ドイツには現在約84,000戸の酪農家があり、搾乳牛の飼養頭数は約19万頭です。離農率は年5.9%と日本を上回っており、他のEU諸国ばかりでなく、オーストラリアやニュージーランドなどオセアニア諸国含む世界的な競争の中で酪農生産が展開されています。現在、ヨーロッパでは政府が目標を持って総発電量に占める再生可能エネルギーの割合を政策として決めています。そのために、バイオガスや木質バイオマス発電や風力発電の設備の拡充が急速に進んでいます。

また、酪農家の畜舎の屋根にはソーラーパネルの設置が急速に進んでいます。ドイツでは電気料金が3種類設定され、価格が割高な「再生可能エネルギー発電による電力」を選択する国民が増えています。酪農の経営展開においても、自給飼料主体の経営がなされており、耕地の肥沃度を保つために近隣の農家同士が共同で輪作を行い連作障害を防ぐ取組みなどがなされていました。
(次号に続く)



酪農家の畜舎の屋根にはソーラーパネル設置が急速に普及しています



風力発電も普及が進んでいます

←農地は近隣の農家同士が、肥沃度を保つために共同で輪作をしています



おまけの写真 「牛は家族の一員9」



「手作りの牛舎で！」
風通しが良すぎて
少し寒いそうです
インド・西ベンガル州

編集後記

最近、とある酪農家のお母さんに教えて頂いて感動したことがあります。その日、朝からPTAの会合や買い物に出かける準備をすると、いつもと違う様子の子牛はすばやく察して一斉に鳴き声を上げるのだそうです。その方は、毎日の生活を「牛中心」にしており、特に子牛を大切に一日に4回は観察してミルクは3回給与しているそうです。「そんなに子牛に付きっきりで、忙しくなりませんか！？」との質問に「自分の子供に接するようにすれば、牛は必ず答えてくれる」と答えてくださいました。学ぶものがあります。

オリオン パスチャライザー

MAM(マム)シリーズ ご紹介



MAM12A (12ℓ)



MAM30 (15ℓ×2缶)

MAM(マム) 初乳・移行乳加熱装置

「マム」は、初乳に含まれる牛白血病ウイルス、ヨーネ菌、サルモネラ菌、大腸菌などを60℃ 30分の加熱でシャットアウトし、移行抗体である免疫グロブリンや、タンパク質をきれいな状態で子牛に給与するお手伝いをします！

加熱による初乳の「免疫グロブリン」は死滅しません！！

【ドイツアグリテクニカ 国際DLG農業技術展】

視察レポート(世界最大の農業技術展)

2013年11月に、世界最大の農業技術展がドイツ・ハノーバーで開催されました。

展示の目玉は、再生可能エネルギーに関する技術です。バイオガス発電で得たメタンで稼働するメタンエンジン搭載のトラクターが注目を浴びていました。出力は最大135馬力でイタリアで試験稼働中とのことでした。

また、木質バイオマス発電が普及し、ヤナギなどの早生樹木を刈取り、粉碎する機械の展示も多くありました。

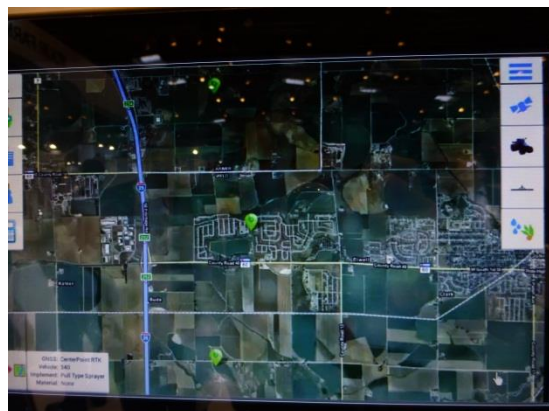
GPS技術を活用し、耕地ごとに施肥や除草管理などの肥培管理を把握する技術も確実に進み、環境にやさしい農業の普及が進んでいることを感じました。



「メタン発電のトラクター」
(バイオガス発電で得たメタンで稼働)



早生樹木刈取機(ヤナギなど刈取る)
(木質バイオマス発電普及のため、有機物需要高まる)



GPS活用した耕地管理システム
(施肥や除草管理などが一目で分かる)